

令和元年度業務実績に関する評価結果に係る対応について

評価結果	対 応
<p><b>No.9 教育（学修成果の評価）</b>                      国家試験合格率は、医師、看護師、理学療法士は目標（94%以上）に達したものの、作業療法士は90.5%となり、目標に達しなかった。</p>	<p>・令和2年度の取組                      作業療法学科においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で学事予定の変更が繰り返し行われた中でも、4年生の学習時間確保に努めた。                      [令和2年度実績]                      医師：97.0%、看護師・理学療法士・作業療法士：100%</p>
<p><b>No.27 附属病院（病院経営改善に向けた不断の取組）</b>                      効率的、効果的な医薬材料費の執行に向けた価格交渉等を行ったが、高度医療の提供に伴う高額医薬品の使用量増加などにより、医薬材料費の割合は42.7%となり、目標に達しなかった。</p>	<p>・令和2年度の取組                      低価格薬品群の導入促進等を進め、新たに24品目29規格の採用を決定し、さらに後発医薬品の使用対象を拡充するなど、効果的、効率的な医薬材料費の執行に努めた。                      ・令和3年度は、新たに策定した経営改善方針に基づき、病院経営改善に向けた各種取組を着実に推進することとし、年度計画に反映した。</p>
<p><b>No.29 社会貢献（看護職を対象とした研修等の開催や助産師キャリアパスの策定）</b>                      地域医療を担う看護職のキャリア形成を促すとともに、看護の実践能力等の質的向上を図るため、地方に勤務する看護職に対する研修、看護部院内研修の公開・受入れ、研修講師の派遣等を行ったことは評価できる。                      しかしながら、助産師キャリアパスの策定については、WGを開催し、課題の抽出、原案の検討を行ったが、年度内の策定に至らず、目標を達成できなかった。</p>	<p>（令和2年4月策定済）</p>
<p><b>No.33 社会貢献（地域医療や健康づくり活動等への支援）</b>                      地域医療に関する政策立案等の審議会委員への就任、地域の健康づくりのための活動に対する講師の派遣を行ったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、健康づくり活動への講師等派遣件数が目標に達しなかった。</p>	<p>・令和2年度の取組                      新型コロナウイルス感染拡大の影響により、依頼件数は減少したものの、引き続き講師の派遣等に協力した。                      ・令和3年度は、引き続き道や市町村等からの講師派遣等の依頼に協力することとし、年度計画に反映した。</p>
<p><b>No.35 社会貢献（保健医療学部における公開講座等の開催）</b>                      保健医療学部の地域貢献推進センターで情報を集約し、専門対象研修会、助産師出前研修、高校出前講座、地方公開講座等を実施したが、高校出前講座の開催については、事業の周知に努めたものの、申し込みが1校にとどまり、目標に達しなかった。</p>	<p>・令和2年度の取組                      新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、オンラインも活用して事業実施に取り組んだ。                      [令和2年度実績]                      高校出前講座：4回</p>

評価結果	対応
<p><b>No.41 業務運営の改善及び効率化（教員の業績評価及び事務職員の採用）</b>            教員の客観的・統一的な評価を実施するため、ワーキンググループを設置し、評価項目や評価基準の見直しを行った。            また、事務職員のプロパー化を進めるため、法人職員の年齢構成や退職動向等を踏まえ、採用試験を実施したが、職員採用の説明に係る大学訪問数は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により目標に達しなかった。</p>	<p>・令和2年度の取組            新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、オンラインも活用して事業実施に取り組んだ。            [令和2年度実績]            大学訪問数：2校</p>
<p><b>No.46 財務内容の改善（科学研究資金の確保）</b>            科学研究費助成事業申請書作成レクチャー及び申請書作成レビューを実施したが、科学研究費の新規採択数及び金額は向上したが、科学研究費補助金の申請数については、目標に達しなかった。</p>	<p>・令和2年度の取組            科学研究費助成事業申請書作成レクチャー及びレビューを引き続き実施して応募促進を図るとともに、採否結果の検証を行い、採択率の向上を確認した。なお、単年度の科研費申請件数は大幅に増加した。(R1:262件→R2:306件)            ・令和3年度は、引き続き外部研究資金及び自己収入の確保に取り組むとともに、採否結果の検証結果に基づき改善に向けた取組を実施することとし、年度計画に反映した。</p>
<p><b>No.50 自己点検・評価及び情報の提供（自己点検・評価及び法人評価・認証評価等の実施）</b>            PDCAサイクルをより効果的・効率的に実施するため、大学全体の内部質保証の推進に責任を負う体制を整備することとし、「北海道公立大学法人札幌医科大学内部質保証推進委員会」を設置したことは評価できる。            しかしながら、日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審した結果、改善に向けて取り組んでいるところであることから、評価結果を「B」評価（十分に実施していない）とする。</p>	<p>・令和2年度の取組            全学的な方針等を定め、内部質保証システムの充実に向けた取組を推進するとともに、病院機能評価結果に対する改善に引き続き取り組んだ。            ・令和3年度は、病院機能評価結果に基づく改善に引き続き取り組むとともに、再審査及び改善審査を受審することとし、年度計画に反映した。</p>
<p><b>No.52 その他業務運営（計画的な施設整備の実施）</b>            施設整備構想等に基づき、各施設の建て替え及び改修工事を進めたが、附属病院既存棟の第Ⅱ期工事について、10月に契約予定であった入札が不調となり、工事終了・移転時期が延期することとなった。</p>	<p>・令和2年度の取組            見直しした工事工程に基づき、着実に、建て替え及び改修工事を進めた。            ・令和3年度は、引き続き道と連携して対象施設の工事を進めるとともに、速やかに移転を実施することとし、年度計画に反映した。</p>
<p><b>No.55 その他業務運営（職場環境の安全を確保する取組）</b>            職場環境の安全確保を図るため、化学物質等を利用している執務室等での適正な使用を促し、異常はなかったものの、定期的な巡視体制の整備には至らなかった。</p>	<p>・令和2年度の取組            産業医の輪番制による体制を整備し、職場巡視を実施した。</p>